

関西大学大阪都市遺産研究センター 地域連携事業
平成24年度 大阪府立中之島図書館特別展

大阪の都市遺産と住友

～中之島図書館と住友文庫をめぐって～

展示期間

平成24年6月26日(火)～7月6日(金) [日曜日は休館日]
午前10時～午後5時

展示場所

大阪府立中之島図書館 3階 文芸ホール
会期中は、「大阪府立中之島図書館記念室」を特別公開いたします。



主催：大阪府立中之島図書館 関西大学大阪都市遺産研究センター

協力：大阪府立中央図書館 住友史料館

ごあいさつ

明治37(1904)年3月1日に開館され、今日まで100年余の歳月をへてきた中之島図書館は、まぎれもなく大阪を代表する都市遺産です。玄関ポーチのコリント様式の石柱とドーム状の中央ホール、左右両翼のシンメトリカルな構造に象徴される建造物は、昭和49(1974)年、国の重要文化財に指定され、中央公会堂とともに、中之島公園の美しい都市景観を構成しています。

これらの建造物が、江戸時代の大阪で銅貿易商として知られた住友家の第15代当主吉左衛門友純(号春翠)氏の寄贈になることは、中央ホールに掲げられた銅版「建館寄付記」の語るところでもあります。そこには、「知を知り、業を起こす」という建館の理念が高らかに謳われています。また、第15代住友吉左衛門友純氏の寄贈は建物にとどまらず、図書館の宝とも言うべき図書そのものにもおよび、それは「住友文庫」として知られています。

国内外の貴重な図書からなる住友文庫のなかで、異彩を放つものとして、大正12(1923)年に寄贈された合本1000冊をこえる学位論文があります。ベルリン大学をはじめ、ドイツの主要大学に提出された膨大な数の医学・化学などの分野の学位論文を、第15代住友吉左衛門氏はなぜ買い求め、中之島図書館に寄贈したのか？

数ある住友家からの寄贈品のうち、これまで一切、全貌の明らかでなかった住友文庫中の学位論文群を分類・整理、図録化する作業が一段落するのを前にして、あらためて中之島図書館と住友との関係に展示と講演で迫ってみたいと思います。

この展示と講演が、中之島図書館と住友文庫を通じて、大阪の都市遺産の保存と活用を考える機会となれば、これにすぎる喜びはありません。

最後になりましたが、ご協力いただいた大阪府立中央図書館と住友史料館に感謝の意を表します。

平成24年6月

大阪府立中之島図書館
関西大学大阪都市遺産研究センター

目次

ごあいさつ

住友吉左衛門と今井貫一～中之島図書館を作った人びと～	藪田 貫	1
徳大寺家および住友家の旧蔵書～大阪府立中之島図書館所蔵～	八木美恵	4
住友文庫の理化学書～大阪府立中央図書館所蔵～	朝治啓三	6
中之島近辺の景観変遷	水田憲志 王海	8
中之島図書館の建築と設計		10
関西大学大阪都市遺産研究センターについて		12

住友吉左衛門と今井貫一

～中之島図書館を作った人びと～

第15代住友吉左衛門と大阪都市遺産の関わりの第一は、いうまでもなく中之島図書館（当初は大阪図書館）の設立であるが、それだけに止まらない。当時、住友には臨時建築部があり、住友自身が、大阪の近代都市景観を構築していた。

古典様式の中の島図書館はその一つであるが、鰻谷の本邸には和洋折衷の建物、須磨の別邸には英国風の洋館、そして一時期、本邸であった茶臼山には小川治兵衛制作の日本庭園慶沢園、さらに昭和2（1927）年に関西大学の大学本館となった北浜の本店ビルなど、大阪に残した遺産には目を眩るものがある。

近代の大阪に対するこれら住友の貢献には、江戸期に幕府公認の銅吹所として、長崎貿易を独占していたという大阪へのこだわりがある。京都の公卿徳大寺家の出身で、必ずしも大阪が好きでなかった第15代住友吉左衛門でも、大阪との歴史的関係を理解していたのであろう。



住友吉左衛門春翠



鰻谷の本邸



須磨の別邸（居間）

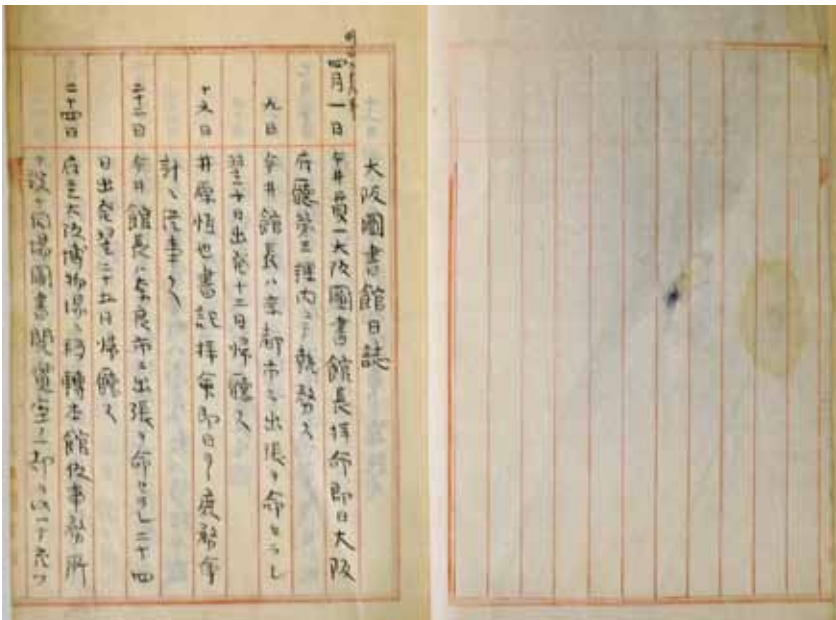


須磨の別邸

住友が送る側とすれば、受ける側にも偉人がいた。徳島出身の初代館長今井貫一である。今井は、「準備期の蔵書収集、目録作成をはじめ、すべての事務を担った」（『中之島百年』）のだ。開館当初はいうまでもなく、新館増設期の日記が残されているのも、彼の見識の高さを示している。さらに彼のもとで、収集した図書の展覧会が定期的で開催された。そんな彼を信頼して、図書の寄贈が相ついだ。老舗の古書肆鹿田静七から寄贈された「正平版論語」は、その代表である。じつに650年前の出版物が、彼によって大阪の文化遺産になったのだ。



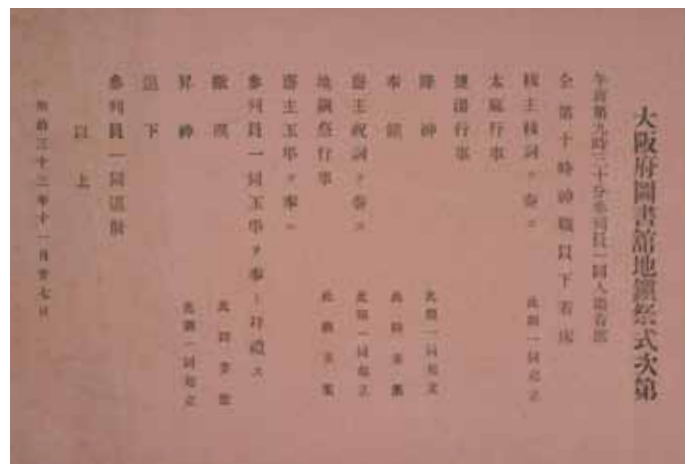
初代館長 今井貫一



開館時の図書館日誌



大阪図書館配景図（住友史料館所蔵）



大阪府図書館地鎮祭式次第（住友史料館所蔵）

新館増設



立食パーティー



新館増設時の式典

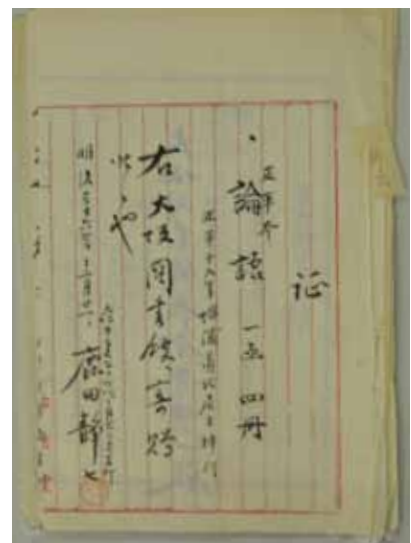


新館増設時の図書館日誌

資料寄贈

第15代住友吉左衛門からの資料寄贈

- ①第1年（明治36年4月—38年3月）
129冊 英語辞書／蘭書
- ②第3年（明治39年4月—40年3月）
7冊 画帖／図巻
- ③第4年（明治40年4月—41年3月）
2,659冊 和古書
- ④第10年（大正2年4月—3年3月）
8冊 和書
- ⑤第12年（大正4年4月—5年3月）
2,504冊 *韓本の購入
- ⑥第13年（大正5年4月—6年3月）
6冊 *韓本の補充
- ⑦第19年（大正11年4月—12年3月）
23冊 画帖
- ⑧第20年（大正12年4月—13年3月）
21,566冊 *主に科学技術書の購入



草創期寄贈願書綴

徳大寺家および住友家の旧蔵書

～大阪府立中之島図書館所蔵～

第15代住友吉左衛門から中之島図書館への資料の寄贈は開館前の明治36(1903)年から大正12(1923)年まで約20年間にわたり続いているが、その中には住友家蔵本も多く含まれている。大阪図書館が名称を「大阪府立図書館」と改めた明治39(1906)年12月には、絵巻物が4巻寄贈され、そのうち「御即位式図」以外の「崎陽諏訪明神祭祀図」「朝儀図巻」「延享年間朝鮮来聘使図」の3点が現存している。「崎陽諏訪明神祭祀図」は、現在「長崎くんち」として有

名な長崎諏訪神社の祭礼行列の様子が描かれており、1800年代前半の長崎の町の様子が窺える。巻頭では、諏訪神社周辺の情景が鳥瞰図として描かれ、棧敷に座る長崎奉行が後日に行われる丸山町の奉納踊りを見物している様子が見受けられる。「延享年間朝鮮来聘使図」は、9代将軍・徳川家重の襲封祝賀のために来朝した第10次朝鮮通信使が、延享5(1748)年7月7日に宿所となった西本願寺津村別院(北御堂)を發ち、乗船のため難波橋付近の棧橋に向かう姿を描いた



延享年間朝鮮来聘使図



崎陽諏訪明神祭祀図

ものである。

明治40(1907)年10月には、第15代住友吉左衛門の生家である公家・徳大寺家から引き継いだ旧蔵書と旧来の住友家の収蔵書が合わせて中之島図書館へ寄贈された。このときの寄贈資料群に押印されていた蔵書印には次の三種類がある。方印「住友蔵書」(S1)は、寄贈時に新調された蔵書印で、徳大寺家旧蔵書。歌書や漢籍などの典籍類が多い。方印「住友氏蔵」(S2)は、住友本店の蔵書で、蘭書や長崎物などが含まれる。「井桁の商標+住友」の周囲に図案化した「長堀」の文字が入った円印(S3)は、明治9(1876)年に廃止された長堀の銅吹所の公印を、住友家の私印に転用したとされており、邸宅で家人が読んでいたと思われる一般的な読物などが多い。

同じような分野でも旧蔵者により収集の傾向が微妙に違っている。浮世草子を例にとると、徳大寺家本(S1)には井原西鶴の「好色一代女」「西鶴置土産」、商人である住友本家本(S2)には同じく西鶴の「日本永代蔵」「西鶴織留」や「商人職人懐旧記」、住友家の家内向き蔵書(S3)には、奇談・珍談を集めた「新可笑記」、淀屋辰五郎没落の事実取材した「長者機嫌袋」「棠大門屋敷」など世相を反映した軽い読物が多い。

また、実学の資料を収集している。司馬江漢がコペルニクスの地動説に準拠して、太陽の運行と惑星の公転、日食・月蝕などを図を付して説明した「和蘭天説」や、からくりの設計図や政策手順を掲載した細川頼直の「機巧図彙」などがある。

なお、住友家蔵版である「鼓銅図録」はオランダ・東インド会社商館長や大坂町奉行の銅吹所視察にそなえ作成されたもので、図書館独自の収集本である。



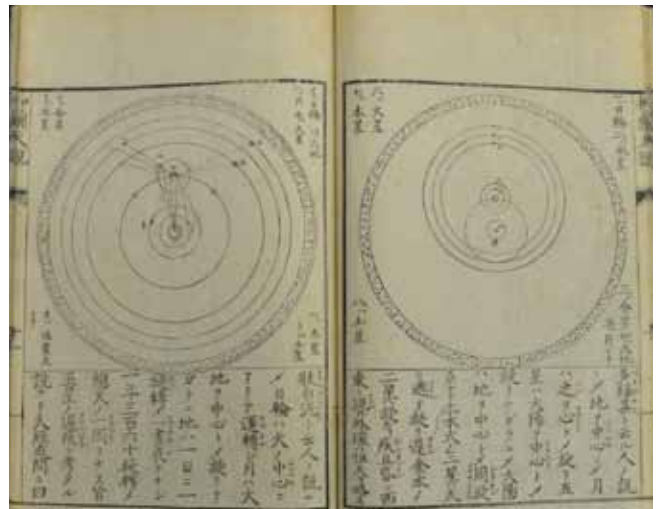
S1

S2

S3



西鶴織留



和蘭天説



鼓銅図録

住友文庫の理化学書

～大阪府立中央図書館所蔵～

大阪府立中央図書館所蔵の「住友文庫」は、大きく単行本約8900冊、学術雑誌約9200冊、学位論文の合本1000冊以上、そして21箱に納められた未製本の論文抜き刷りやパンフレット類に分けられる。大半は理学、工学、医学、薬学、衛生学の文献である。第1次大戦前に政府の留学生としてドイツ・カールスルーエのハーバー研究所に留学していた田丸節郎が、大戦終了後、ドイツの各大学が売却した学術文献の中から、当時の所属先である理化学研究所に所蔵することを目的に独自の基準で選書した。かなりの高額であったため、住友、三井と三分して購入することとし、相談を受けた住友家総理事鈴木馬左也は第15代住友吉左衛門の許可を得て資金を提供した。その後住友家は購入した書籍類を大阪府立中之島図書館に寄贈された。1920年代にはその一部（単行本や雑誌）が大いに利用されたようである。現在は府立中央図書館書庫に所蔵されており、そのうち貴重書や学位論文は公開されていない。

単行本にはガリレオの『天文学対話』(1641)が含まれる。収蔵されているのはラテン語訳であるが、イタリア語版(1632)は地動説を論証し、教皇庁から禁書とされた。日本人の著作もあり、



田丸節郎博士

中でも森鷗外(林太郎)がドイツ語で出版した*Japan und seine Gesundheitspflege*は、彼がドイツ留学中に執筆した衛生学の論文3篇が含まれている。出版地は東京であるが、ドイツの大学図書館がこれを所蔵していたことが分かる。また、学術雑誌にはCrellが発刊した化学雑誌*Die neuesten Entdeckungen in der Chemie*や総合科学誌*Scientific American*があり、幅広い収集がなされている。

学位論文には、19世紀半ばから大正6(1917)年



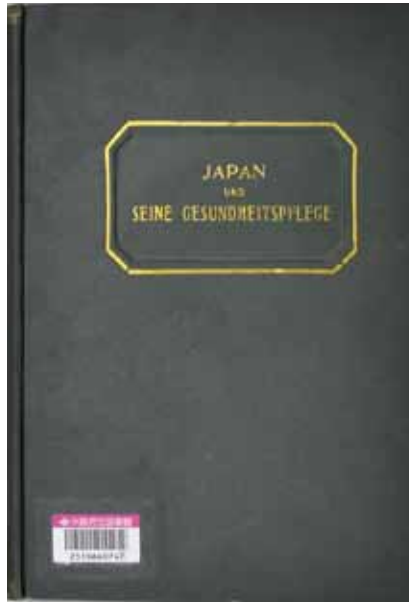
住友文庫 (中之島図書館当時)



住友文庫 (大阪府立中央図書館)



蔵書印



Japan und seine Gesundheitspflege

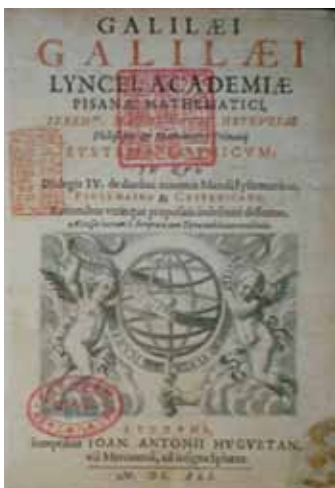


Mitsutaro Ogataの医学論文

までに学位を授与された医学、工学、理学などの理科系諸分野の論文抜き刷り（整理中のため閲覧不可）が含まれる。それらのうち医学の論文については、現在、関西大学大阪都市遺産研究センターが目録を作成中である。これらの学位論文は明治44（1911）年の購入以後、分類されないまま書庫に100年以上も眠っていた。数十頁の論文抜き刷りを数十冊ずつ合本したものが、医学だけでも500冊以上所蔵されている。各合本の最初の論文の表紙には住友男爵寄贈の印が押されている。ドイツやスイスの27大学の学位論文のうちベルリン大学だけで約100冊あり、そこにはドイツ以外のヨーロッパ各地から、さらに

はアジアやアメリカからも学位を取得するためにドイツに赴いた医師たちの、当時としては最新の研究成果が公表されている。その中に日本人医学者の論文も含まれ、その一冊を展示する。

大正11年に中之島図書館は住友家からの寄付を得て両翼を増築した。そこへ収蔵される書籍として、これらの理科系に特化した文献が選書され、他ならぬ大阪府に寄贈されたのは、偶然とは思えず、また田丸氏や鈴木氏の個人的判断とも言いきれないであろう。そこには第1次大戦後の大阪の進展を期待した政財界、産業界、教育界、そして図書館に通った一般読者の意欲が反映されているように思える。



ガリレオ『天文学対話』



Die neuesten Entdeckungen in der Chemie



Scientific American

中之島近辺の景観変遷

中之島は堂島川と土佐堀川に挟まれた中洲である。明治期から日本銀行大阪支店、大阪帝国大学、図書館、公会堂、大阪市庁などの近代的建築が集中し、大阪の中心としての機能を果たした。これらの建築は後に幾度かの移転・増築を経験、それにつれて中之島近辺の景観は大きな変化を遂げた。中之島は大阪大空襲をまぬがれ、人々に近代大阪の歩みを語り続ける。淀屋橋・大江橋から難波橋までの空間に絞り、中之島の今昔を複眼的に紹介してみたい。



写真は著作権上掲載できません

15 豊国神社と中之島図書館（大正期）

写真は著作権上掲載できません

14 大阪控訴院（昭和初期）

写真は著作権上掲載できません

12 公館区一帯（大正後期）

写真は著作権上掲載できません

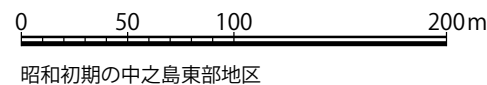
13 豊国神社（大正後期）



11 中之島図書館（明治後期）
『大阪府写真帖』

写真は著作権上掲載できません

10 中之島図書館（大正期）



昭和初期の中之島東部地区

写真は著作権上掲載できません

中之島の眺望（中央に市庁舎、昭和初期）



写真は著作権上掲載できません



4 創立時の中之島図書館（明治後期）



5 増築時の中之島図書館（大正期）

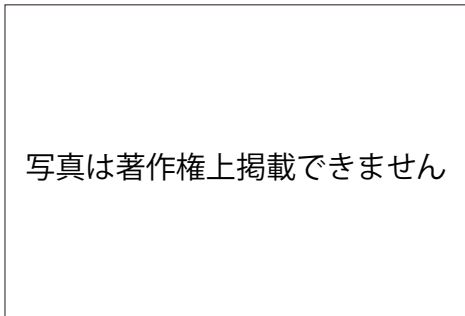
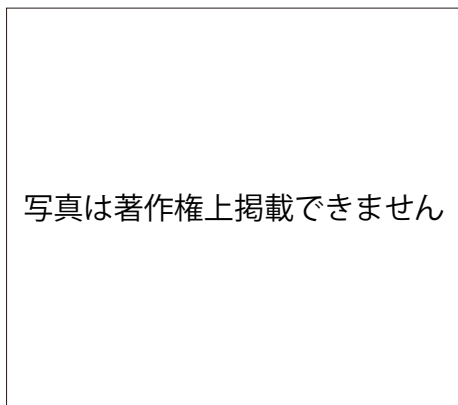


6 中央公会堂（大正期）

写真は著作権上掲載できません



7 大阪控訴院（大正期）
『大阪府写真帖』



8 中之島図書館（明治後期）

中之島公園を望む（中央に難波橋、昭和初期）

9 堂島川の眺望（上：明治37年、下：昭和32年）

中之島図書館の建築と設計

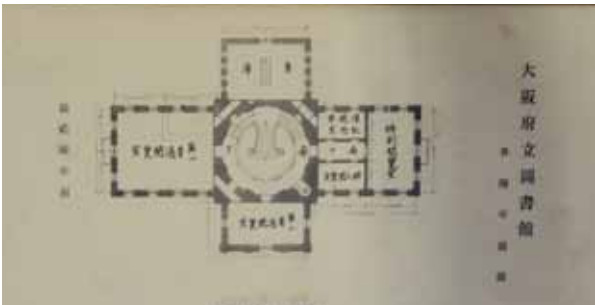
大阪府立中之島図書館は、第15代住友吉左衛門の寄付により、明治37(1904)年、「大阪図書館」として開館した。建物の設計を担当したのは、住友本社の技師長を務めた野口孫市で、当時まだ30歳の青年であった。野口孫市は、住友家の依頼を受けて、約1年にわたる欧米視察から、明治33(1900)年に帰国した。そして、最初に指示されたのが、「住友家須磨別邸」と「大阪図書館」の建築設計だったのである。

当初の建物は、西面の玄関と丸屋根及び1号書庫を持つ十字形の本館のみであったが、大正11(1922)年に住友家の寄付をうけ、日高胖の設計で本館左右の両翼が増築された。

記念室は大正11年の両翼増築時に現在の場所に移設され、第15代住友吉左衛門氏の寄与せられた功績を記念し、同氏の肖像が掲げられた。



野口孫市



第貳階平面図 (創建時)



正面図 (創建時)



現在の中之島図書館



断面図

記念室



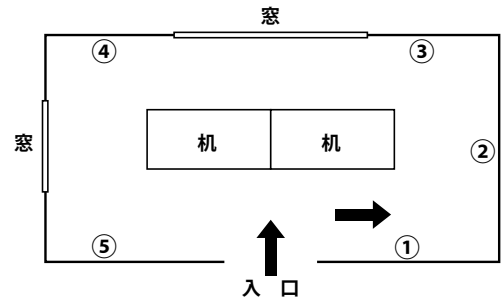
①今井貫一の肖像画（油彩・キャンバス）伊藤快彦画

今井貫一（大阪図書館初代館長）（1870～1940）

東京帝国大学卒業。中学校校長の職にあったが、住友家の推薦により、明治36年初代大阪図書館長として着任した。府立図書館の基礎を作り、大阪の文化興隆に尽くした。



中之島図書館記念室



記念室の調度品

- *机はケンボ梨製
甲板寄木張 1脚 (1.36m×2.7m)
楓材製 1脚 (1.36m×2.57m)
- *脇掛椅子は桜材製、レザー張り肘付 10脚
レザー張り肘なし 12脚
- *シャンデリア 2灯
- *絨通は羊毛製で
13尺×14尺 (3.94m×7.27m = 28.6m²)
- *ライティングデスクと家具



②第15代住友吉左衛門氏肖像（銅製レリーフ）朝倉文夫作

第15代住友吉左衛門友純

(1864～1926)

京都の精華家の公家徳大寺公家に生まれた。西園寺公望の実弟、幼名は隆磨といった。明治25年、学習院在学中の29歳に住友家に入り、その長女満寿と結婚、翌年住友家15代を継承、吉左衛門（友純）を襲名した。外遊先のアメリカで富豪マーシャル・フィールドの寄付によって保存された美術館に感銘を受けたことが、大阪図書館寄付につながった。



③「奈良の鹿」

油彩・キャンバス 93.0cm×63.0cm
浅井忠画



④「京都の牛」

油彩・キャンバス 93.0cm×63.0cm
浅井忠画



⑤「大阪港 (安治川)」

油彩・キャンバス 89.0cm×153.5cm
浅井忠画

※浅井 忠 (1856-1907)

フランスで印象派の伝統を学び、京都洋画壇の中心として活躍した。明治39年には、住友家から寄付を得て関西美術院を開き、後進を育てた。

関西大学大阪都市遺産研究センターについて

この特別展「大阪の都市遺産と住友」は、大阪府立中之島図書館と関西大学大阪都市遺産研究センターの主催で開催されています。関西大学大阪都市遺産研究センターは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されたプロジェクトで、平成22年度から26年度までの5年間にわたって研究活動を展開しています。

関西大学大阪都市遺産研究センターでは、大阪の文化と歴史を主題として、大阪の都市遺産を史的に検証し、その継承と発展を目指します。

江戸時代に「商都」「水都」とされた大阪が、明治維新後の工業都市化、大正後期から昭和初期にかけての「大大阪」の時代、第2次世界大戦時の空襲による壊滅、戦後の復興と高度成長期における変貌を経る中で、どのような景観変遷を経験しているかを、マクロとミクロの両視点から解き明かします。あわせて、CG映像を制作し、都市遺産アーカイブズの構築も目指します。

これまでに関西大学大阪都市遺産研究センターでは、大正時代の道頓堀の景観復元に取り組んできました。古写真・絵画・地図などの諸史料を調査・研究し、それらのデータを基に3次元CGを制作しています。

また、本研究センターの前身にあたる「関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究中心」(文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業、平成17年度～21年度)では、オーストリア・グラーツ市のエッゲンベルク城で発見された「豊臣期大坂図屏風」の研究を進めてきました。大阪都市遺産研究センターでも、引き続き「豊臣期大坂図屏風」の研究を行っています。

他にも大阪都市遺産研究センターでは、国際シンポジウムや大阪都市遺産フォーラムの開催、「大阪都市遺産叢書」の刊行など、研究成果を広く社会に発信しています。国際シンポジウム、フォーラムの開催情報や、研究成果の情報はwebサイトでも見るすることができます。



関西大学大阪都市遺産研究センター



道頓堀五座の復元 (浪花座)



「豊臣期大坂図屏風」デジタルコンテンツ

(関西大学大阪都市遺産研究センター
<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/index.html>)

フォーラム

大阪の都市遺産と住友

～中之島図書館と住友文庫をめぐって～

講師

朝 治 啓 三

関西大学文学部教授
関西大学大阪都市遺産研究センター研究員

安 国 良 一

住友史料館副館長

橋 寺 知 子

関西大学環境都市工学部准教授
関西大学大阪都市遺産研究センター研究員

藪 田 貫

関西大学文学部教授
関西大学大阪都市遺産研究センター長

日時・会場・定員

日時：平成24年7月7日(土)
午後1時30分～午後5時

会場：大阪府立中之島図書館
3階 文芸ホール

編集 内田 吉哉（関西大学大阪都市遺産研究センター特任研究員）
岩田 陽子（関西大学大阪都市遺産研究センター リサーチ・アシスタント）
編集協力 八木 美恵（大阪府立中之島図書館司書）
水田 憲志（関西大学非常勤講師）
王 海（関西大学大阪都市遺産研究センター リサーチ・アシスタント）
協力 大阪府立中央図書館
住友史料館

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成22年度～26年度）

関西大学大阪都市遺産研究センター 地域連携事業

平成24年度 大阪府立中之島図書館特別展

大阪都市遺産と住友 ―中之島図書館と住友文庫をめぐって―

平成24年6月26日 発行

編集・発行 関西大学
大阪都市遺産研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話06-6368-0095 FAX06-6368-0092
印刷所 株式会社NPC コーポレーション
〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19

